

5周年記念上映会「フラガール」、8月18日に市民会館で開催

7月例会は10日に「マザー・テレサ」

今夏で、加古川シネマクラブの活動が始まって5年目を迎えます。2か月に1回の例会(会員の映画鑑賞会)を中心とした活動ですが、地域への映画文化普及のため、地域の皆さんを対象にした上映会の主催や協力も行うようになってきました。

一昨年の「父と暮せば」、昨年の「二人日和」に続き、8月18日には、加古川市民会館で、「フラガール」の上映会を行うことになりました。会員の皆さんには、ご家族やお知り合いをお誘い合わせのうえ、ご来場くださいますようお願いいたします。

今年は、特別ゲストとして、李相日(り・さんいる)監督をお招きし、お話を聞くことになりました。

この上映会は、加古川シネマクラブ5周年記念事業として、文化庁の日本映画上映支援事業の補助金を受けて実施するものです。多くの皆さんにご来場いただき、この会のことも広く知っていただきたいと思っております。



5周年記念上映会「フラガール」

名称 / 5周年記念上映会「フラガール」

特別ゲスト 李相日(り・さんいる)監督

日時 / 2007年8月18日(土)

上映会は、AM10:30 ~、PM2:00 ~

監督トークは、PM4:00 ~、

(PM0:30 に、監督舞台紹介のみ予定)

場所 / 加古川市民会館中ホール(JR 加古川駅から南へ徒歩20分、加古川市役所横)

料金 / 加古川シネマクラブ会員 800円、一般1,200円。(非会員はチラシ割引などをご利用ください)

【作品データ】

タイトル / フラガール

監督・脚本 / 李相日(り・さんいる)

出演 / 松雪泰子、豊川悦司、蒼井優、山崎静代、池津祥子、岸部一徳、富司純子

データ / 2006年、日本、カラー、2時間、ドラマ

【ストーリー】

昭和40年、福島県いわき市の閉鎖が迫る炭鉱のまちで、レジャー施設「常磐ハワイアンセンター」のプロジェクトが持ちあがっていた。炭鉱のまちの娘たちにフラダンスを教えるため、SKD(松竹歌劇団)で踊っていた先生がやってきた。

しかし、世間の風当たりは依然強く、さらに予期せぬ出来事が起こり・・・。

果たして常夏の楽園は誕生するのか?無事に笑顔でオープンの日を迎えられるのか?

この映画は、2006年の日本アカデミー賞やブルーリボン賞で最優秀作品賞を受賞したのをはじめ、主演の松雪泰子、新人の蒼井優、監督と脚本の李相日も、多くの賞を受賞するなど、はじめはあまり話題にならなかったが、振り返ってみると、2006年の日本映画の中で最も注目された作品となっていた。

【李相日(り・さんいる)監督について】

1974年新潟県生まれ。高校まで横浜の朝鮮学校に通う。大学卒業後、日本映画学校に入学し映画を学ぶ。卒業制作作品『青~chong~』(99)がぴあフィルムフェスティバルでグランプリを含む史上初の4部門を独占。その後、スカラシップ作品として制作された『BORDER LINE』(02)で高い評価を得て、村上龍原作×宮藤官九郎脚本作品『69 sixty nine』(04)の監督に大抜擢された。今、日本映画界で最も注目されている若手監督。最新作は『スクラップヘブン』(05)。(『フラガール』ホームページから転載)

7月例会のお知らせ

貧困と飢えに苦しむ人々のため、世界平和のために、その 87 年の生涯を捧げた伝説の修道女マザー・テレサの人生を映画化した伝記ドラマ。ストーリーとともにオリヴィア・ハッセーが 36 歳から 87 歳までのマザー・テレサを熱演しています。



名称 / 第 31 回例会「マザー・テレサ」

日時 / 7 月 10 日(火) PM2:00 ~、 PM4:20 ~、
PM6:40 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

タイトル / マザー・テレサ

監督 / ファブリツィオ・コスタ

出演 / オリヴィア・ハッセー、ミハエル・メンデル、エミリー・ハミルトン、セバスチャーノ・ソマ、ラウラ・モランテ、イングリッド・ルビオ

データ / 2003 年、イタリア / イギリス、1 時間 56 分、ドラマ / 伝記

【会員の声】

この映画では、マザーのいくつかのエピソードが紹介されています。マザーの全く無私で献身的な愛が描かれます。彼女が、特別の人でもなく、自分に徹底して忠実に生きた人だということが描かれます。特別にドラマチックに描こうとはしていませんし、そういう自然体のマザーの姿を見ていると、見ている側の気持ちが浄化されていきます。見終わったあと、少し優しくなった自分を感じるの出来る、ある意味、不思議な魅力のある作品です。演じるオリヴィア・ハッセーが、マザーになりきっているの

も見事です。(健)

前回例会の報告

5 月 11 日の例会では、「ホテル・ルワンダ」を鑑賞しました。参加会員 155 人。

アフリカのルワンダで 1994 年に実際に起きた、民族間の争いによる 100 万人規模の大虐殺。その中で、ひとりの男性の良心と勇気が、殺されゆく運命にあった 1200 人の命を救ったという実話を映画化したものだけに、作品の質も然ることながらテーマが凄かったといえるでしょう。

【参加者の感想】

・「とっても良かったです。ノンフィクションであるのに、まるで作ったようにサスペンスや感動があり、とても余韻がありました。この映画が日本での上映がなく、ひとりの青年の熱意で上映が実現したことにとっても感謝しています」

・「いい映画を見せてくださってありがとう。もっと多勢の日とにこの映画を見てほしいなー。美しいはずの地球で、こんなことがあちこちで起っている現状、国連でなんだろうと思うことも。胸がつまみず。日との勇気に感動です。ありがとう。」

・「神様も仏様もないようなすごい映画でした。しかも実話とは・・・。お金・物質が大事だなんて・・・。現実はそのかも。」

・「ショックです。何もできない自分が情けないです。どうしたら良いのか考えます。 実行。」

・「こんなことが今も地球上で繰返されているのだ！ あらためて怒りをも憶える、アメリカをはじめに豊かな国はいったい何をしたのか！」

・「アフリカで大虐殺が起っていても、アメリカ、イギリス、西欧をはじめ、世界は何もしないのがわかった」

・「悲しい」

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200 ~ 300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 204 人(5月 11 日現在)